

学校通信



にしあさけ



四日市市立西朝明中学校

令和5年度 第11号
令和5年9月8日(金)

全国学力・学習状況調査結果を受けて

本年度の全国学力・学習状況調査の西朝明中学校の結果を受けて分析の結果をお伝えします。

<学習状況調査の結果から>

本校は市指定のICT活用推進校として3年目を迎えます、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問に肯定的に回答した割合は全国や県の値を2ポイント近く上回っていました。また、「1、2年生のときに受けた授業で、PC、タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という質問に、ほぼ毎日または週3回以上使用と回答した割合も全国61.1%、県81.1%に対して、本校は89.4%と上回っており、ICT機器の効果的な使用について取り組みの成果が表れていました。

「先生はあなたの良いところを認めてくれる」「先生はわからないことをわかるまで教えてくれる」「困りごとがあったときに、先生や学校にいる大人に相談できる」の項目については、全国・県と比較して、肯定的な意見が多かったので生徒は安心して学校生活を送れているようです。また、「人が困っているときは進んで助ける」「人の役に立ちたい」などは肯定的な意見が目立ち、進んで社会に貢献しようとする姿が見られました。

「朝食を毎日食べる」「毎日決まった時間に寝ている(起きている)」などの数値が例年よりも低くなっており、食育や保健の授業を通じ、生活リズムの安定の大切さを学ぶ機会を設けたいと思います。また、「将来の夢や目標を持っているか」「学校以外での学習時間」に関わる質問に対する数値が低く、より一層のキャリア教育の充実や計画的な学習習慣の定着に課題が見られましたので、家庭学習での勉強の方法などもより具体的に指導していきたいと考えています。

国語科については、苦手意識を持っているという回答が多くみられましたが、数学科については「数学の勉強が好き」「よくわかる」などの質問に対して肯定的な回答が多く、いずれも全国・県の割合よりも高い結果となりました。英語科についても数学と同じような傾向が見られました。英語科と数学科に関しては少人数やT.T.の形式で授業を行っており、教員の目がいき届きやすい授業が実施できていることがこの結果につながったと考察します。今後も前向きな雰囲気やうまく生かし、主体的に学習に向かう態度を育てていきたいと考えます。

<学力状況調査の結果から>

本年度の学力状況調査は「国語」「数学」「英語」を実施しました。各教科とも、本校生徒の平均正答率が全国平均及び県平均を1～5ポイントほど下回る結果となりました。

【国語】では知識技能は65.3%の正答率でこれは全国・県平均を2～4ポイント下回りましたが、思考判断表現力は69.3%の正答率で全国・県平均とはほぼ同率でした。問題形式別で記述式が、70.7%であり、これは全国・県を2.5ポイント以上上回っていました。問題別では思考・判断・表現の問題正答率が高く、「どのように工夫されているか比較して書く」の問題では全国・県を5ポイント以上「自分の考えを書く」の問題では4ポイント以上上回りました。しかし「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」の問題をはじめ知識・技能に関する問題に正答率が低い結果となっています。記述する力はある程度は定着しているので「知識・技能」を定着させつつ「思考・判断・表現」の力をさらに充実させることを考えて授業を組み立てていきたいと考えています。

【数学】では学習指導要領の領域でみると、「データの活用」においては、全国平均を8.6ポイント上回る結果となりましたが、それ以外の領域においては、全国平均からそれぞれ4ポイント程度下回りました。観点別において、全国平均を下回っているものの、「知識技能」より「思考力判断力表現力」の観点のほうが、全国平均に近い正答率となっています。また、問題形式別において、全国平均との差をみると、「選択式」より「短答式」「記述式」の正答率が高いことから、知識を活用して問題を解決することや、自分の考えを表現することには長けていますが、基礎基本が身につけていないがために、力を出し切れない結果になったと考えられます。今後の授業の中で、既習事項を随時確認することや、反復練習を意図的に組み込むことによって、知識を定着させる取り組みを工夫していきたいと考えます。

【英語】では本校の平均正答率が40%に対し、全国平均の45%、県の平均45.6%となっています。学習指導要領の領域においては、「読むこと」に関して、全国平均をわずかに下回る結果となりましたが、他の領域に比べ高い値を示しており、本校生徒の強みととらえられます。問題別では「事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する」や「図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する」などの問題は全国平均を上回る正答率となりました。読むことに関する能力は高い一方で、読んだことに関して、自分の考えや感想を書く問題では正答率が低く、全体的に苦手とする生徒が多いようです。幅広く既習事項が出題される本調査では、適切な形や不足する語句を補うことができなかったようで、文法事項に関しては授業の中で再度確認し、定着を図る取り組みを進めていきます。また長文を読み、自分の意見を書く取り組みや、身近な題材を用いた表現活動に取り組むなど、繰り返し授業の中で練習を重ねていくことで、読解力と書く力の向上を図っていきます。